

情報モラル教育実践授業報告書


対象学年	小学校 6年
領 域	総合的な学習の時間
指導項目	情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる。

情報モラル指導モデルカリキュラム (http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html)			
指 導 分 野	安全への知恵		
コ ー ド	d3-1	指 導 事 項	予測される危険の内容が分かり、避ける。

授業前の児童生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年になると、行動範囲が広がり、いろいろな人や組織と関わる機会が増えていく。自分の世界が広がったり、知識が深まったりすることに喜びを感じる児童も少なくない。 ・スマートフォン等の所持率が高まり、簡単に世界を広げられるようになっている。 ・しかし、そこに潜む危険に対する知識や対策が不十分であることが多い。犯罪等の危険に巻き込まれる可能性が高くなるとともに、インターネットにかかわるトラブルも発生している。
期待される児童生徒の変容 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上で知らない人と交流する場合の危険性について理解を深め、その対策の必要性を感じる。 ・インターネットの特性を理解し、個人情報が伝わらないようにしたり、トラブルに巻き込まれたときに大人と相談をしようとしたりすることができる。
児童生徒の変容を促すための授業の工夫 (ポイント)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教育支援ソフトを使うことで、相手の顔を直接見ることができないネットの世界では、簡単に「なりすます」ことができることなど、インターネットに潜む危険性について、共感的に理解できるようにする。 ・情報モラルは日常のモラルが基本となるため、情報モラルを日常のモラルと結び付けて考えさせる。
利用するコンテンツ等 (サイトのアドレス) または資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教育支援ソフト 「事例で学ぶN e tモラル」 玉川大学 教授 堀田龍也 企画・監修 A-04 「えっ！こんな人だったの！」 <概要>掲示板で知り合った人から「会いたい」とメールが届く。ケータイのメールアドレスを教え合い、会う約束をする。待ち合わせの場所に来たのは怪しい人物。怖くなり会うことをやめるが、ケータイとパソコンに大量のメールが届くようになる。 ・事前アンケートの結果から作成したグラフ

評価

児童について	<p>児童の興味・関心の度合い</p>	<p>1. 低 2 3 4. 高</p> <p>┆──────────┆──────────┆──────────┆──────────┆</p> <p>○</p> <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> よく意見や発表がされ、関心の高さを感じさせた。自分たちのアンケート結果を知る場面では、児童の姿勢が前のめりになっていた。また、クラスの中に、インターネットで知り合った人とメールのやりとりをしている児童がいることに驚きを見せていた。
	<p>児童の理解度</p>	<p>1. 低 2 3 4. 高</p> <p>┆──────────┆──────────┆──────────┆──────────┆</p> <p>○</p> <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットで知り合った人と会うことの危険を感じさせ、どう対処すればよいのかを考えさせることができた。ほとんどの児童が、個人情報を簡単に教えてはいけないと理解できた。
	<p>児童の変容の度合い</p>	<p>1. 低 2 3 4. 高</p> <p>┆──────────┆──────────┆──────────┆──────────┆</p> <p>○</p> <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> 「なりすまし」の怖さを、児童はよく理解した。そのために、個人情報を漏らさないことや保護者等と相談することの大切さを感じていた。しかし、授業時間内に、「人を信じられなくなる」という発言がみられ、それに対するアプローチが十分にできなかった。人を見る目を養うとともに、危険を予測し対処しながら、インターネットを適切に利用する方法を判断させる必要がある。
授業について	<p>事前準備の難易度</p>	<p>1. 難 2 3 4. 易</p> <p>┆──────────┆──────────┆──────────┆──────────┆</p> <p>○</p> <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の指導案や資料など、そのほとんどが「Netモラル」のセット内にあるので、準備は容易であった。このように、既存の教材を利用するとよい。
	<p>指導者にとっての授業展開の難易度</p>	<p>1. 難 2 3 4. 易</p> <p>┆──────────┆──────────┆──────────┆──────────┆</p> <p>○</p> <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童にとって考えやすく、共感できる資料である。「日常のモラル」と「情報モラル」の結び付きが授業のポイントとなる。それを意識しながら授業展開することができれば、展開は容易であると感じた。しかし、日常のモラルと情報モラル両方の視点でまとめることが少し難しい。
	<p>授業の「ねらい」の達成度</p>	<p>1. 低 2 3 4. 高</p> <p>┆──────────┆──────────┆──────────┆──────────┆</p> <p>○</p> <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめで、児童に感想等を書かせた。「個人情報を教えない」「家族と相談したり、ルールを決めたりする」「身内だけでメールのやり取りをする」など、授業のねらいにせまるものが多いと感じた。しかし、「日常のモラル」面のまとめが弱かったこともあり、感想等が少なかった。日常のモラルと情報モラルの両立には指導の工夫が必要である。

	指導方法の 効果の度合い	<div style="text-align: center;"> <p>1. 低 2 3 4. 高</p>  </div> <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのインターネットの利用実態を理解することができ、「情報モラル」について意識を高められたという点で、効果を感じた。しかし、全員が危険を意識して利用できるようになるには、継続的な指導が必要である。一方、「日常のモラル」としては、もう一歩踏み込んで考えさせたかった。インターネットの特性を踏まえ、人を信じることと、危険を予測し自分を守ることの両立を児童に考えさせることが望まれる。
<p><実践の感想及び反省点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時は、インターネットを通じた「なりすまし」と「思いこみ」による危険性を扱った。児童の意識や関心が予想以上に高く、インターネットを日常的に利用していることが分かった。アンケート結果より、自分たちの実態が予想以上に危険にさらされていると感じた児童も多く、危機感をもたせながら授業を進めることができ、児童の危険・安全に対する意識を更に高めることができた。 ・日常のモラルと情報モラルを結び付けながら授業実践をしたことで、相乗効果が得られると感じた。情報モラルに潜む危険は深刻なものが多く、共感的に扱うことができる。そこから日頃の生活を見直したり、自分の考え方を深めたりできる可能性を感じた。その両立はなかなか難しいが、目指すべき方向性と考えている。 ・本時に使った教材は、登場人物の気持ちを理解しやすく、共感的に扱うことができた。児童は「ネットで知り合った見知らぬ人と会うことはとても危険」であるとよく理解できた。 ・今回は、スマートフォンやSNSなどを日常的に利用している若手教員が授業を行った。今後、学年全体や学校全体へと情報モラルの指導が広がっていくことを願っている。情報モラル教育は、こういった若手教員が率先して指導することができ、若手教員の意欲とベテランの指導技術が融合して、学校の活力につながるであろうと感じている。 		

実践例

配当時間	学習のすすめ方	指導のポイント
導入 10分	<ol style="list-style-type: none"> 1 テーマ「思い込みの危険」について知る。 2 どんな人かを判断するとき、見るポイントはどこですか。 「勉強しているときの様子」 「言葉」「運動中」「表情」 など 3 友達になりたいと思ったときに、アプローチする方法を考える。 「自然の成り行きで」「声をかける」 「手紙」「メール」 など 4 アンケートの結果を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いい人だと思っていたのに…」という経験を発表させる。 ・いろいろなイラストから、危険な人かどうかを判断させる。 ・いろいろな方法があることに気付かせながら、メールという方法があることに気付かせる。
展開 30分	<ol style="list-style-type: none"> 5 映像クリップを見る。 Netモラル A-04 「えっ！こんな人だったの！」 6 ネットの返事から、ペットが元気になったときの主人公の気持ちを考える。 「ありがとう」「いい人と出会えてよかった」 7 「会いませんか？」とメールで言われたときの主人公の気持ちを考える。 「お礼が言いたい」 「危険かもしれない」 8 主人公はどうすればよかったのかを考える。 「携帯電話の番号を教えたのはよくない」 「会いに行ってはいけない」 9 「なりすまし」について、理解を深める。 「インターネットでは相手の顔が見えなくても連絡がとれる」 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の気持ちを考えさせながら見させる。 ・感謝の気持ちを理解させる。 ・危ないかもしれないという気持ちと、信じたいという気持ちの心の葛藤に気付かせる。 ・危険を予知することの大切さに気付かせる。 ・インターネットのトラブル事例から、「いい人」になりすまして近づいてくる人がいることや、悪意をもった人がいることを理解させる。

		<p>10 メールを発信するときの行動を考える。 「危険が潜んでいることを踏まえて判断をすること」 「個人情報を教えることは危険」 「困ったことがあったら、大人に相談をすること」</p> <p>11 日頃の自分にできること、心がけたいことを考える。 「思い込みをしないように気をつけよう」 「危険を予測して行動したい」 「仲間から信頼されるようにしたい」</p>	
ま と め	5 分	12 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで知り合った人と会うことや、個人情報を発信することの危険性を確認する。